

先週の説教要旨

『夜明けの漁』井上隆晶牧師
ヨハネ 21 章 1～14 節

❶【何度も復活した姿を現されるキリスト】今日はガリラヤ湖畔（ティベリアス湖畔）に復活した姿を現わしたイエス様のお話をします。ヨハネによると三回目だそうです（14 節）使徒言行録によると 40 日間にわたって現れた、とも書かれています（使徒 1 : 3）。何度も何度も復活した姿を現わされるのは、弟子たちの教育のためだったと思います。

❷【二回の何も取れない漁から学ぶこと】ペトロとの六人の弟子たちは舟に乗り込み、漁に出かけました。しかしその夜は何も捕れませんでした。ルカ福音書 5 章にも「何も捕れない漁」の物語が出てきます。なぜ同じような経験の話が聖書の中に出てくるのでしょうか。

（1）人は同じ経験を、同じ失敗を繰り返すという事です。一人の人でもそうですし、時代を越えていろんな人に同じ経験は繰り返されます。これらの物語はすべて前例として書かれており、私たちがこれから学ぶためです。あなたがもし何度も同じ失敗を繰り返すなら、何かが間違っているのです。聖書は、「これは私のことが書かれている！」と思って読まなければなりません。

（2）ヨハネとルカの何も取れない漁の共通な所はどこでしょう。「一晩中、網を降ろして漁をした」ことと、「何も取れなかった」ことです。違う所はどこでしょう。ルカの方は「イエス様は舟に乗っていた」こと、ヨハネの方は「イエス様は陸にいた」ことです。舟の中にいるイエス様は復活前の姿であり、陸にいたイエス様は復活後の姿でしょう。湖は安定しないこの世を象徴し、陸は神の国の岸辺を象徴しています。しかし、どちら

もキリストの指示に従わなければ、大漁の経験をすることが出来なかったということです。ルカでは「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなさい。」（ルカ 5 : 4）と言われ、ペトロは「先生、私たちは、夜通し苦労しましたが、何も取れませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみしましょう。」（ルカ 5 : 5）と言って、言葉の通りに実行しました。ヨハネの方は「舟の右側に網を打ちなさい。そうすれば取れるはずだ。」（ヨハネ 21 : 6）と言われ、弟子たちが言われた通り網を打つと 153 匹の魚が取れました。4 世紀のヒエロニムスは、153 匹の魚とは地中海の全ての魚の種類であり、あらゆる人が救われるという意味だと解釈しました。またある学者は「舟の右側とは外国人を意味する」とも解釈しました。私たちは、苦労して何の成果も生まれなかったとしたら、「これだけやっても変わらないなら、もうやるだけ無駄だ」と思って、結論を簡単に出してしまうのです。伝道も特にそうです。私たちは福音を伝える前からけっこう決めつけていることがあるように思います。ヤクザは無理とか、親は無理とか、この人は無理とか思い、福音を伝えること自体がなくなっています。私は、ここを読みながら勇気をもってはっきりと誰にでも伝えてみようと思う様になりました。これは、「主権は誰か」という試験なのです。自分を主人にするか、キリストを主人とするかの試験です。自分の判断で行うか、神の言葉に従う僕になるかの試験なのです。自分を主人とするから答えを出してしまうのです。僕は答えを出しません。僕にならねばなりません。

❸【キリストと共に朝食を取る】弟子たちが陸に上がると、既に朝の食事が用意されていました。私たちにも天国に行くと、必要なものが用意されているのです。イエス様は「わたしの父は今もなお働いておられる。だから私も働くのだ」↑

週報

日本キリスト教団 都島教会

伝道所設立 1957 年 12 月 1 日 教会設立 2001 年 12 月 2 日
〒534-0012 大阪市都島区御幸町 2-6-17

TEL06-6922-1120 FAX06-6922-1120

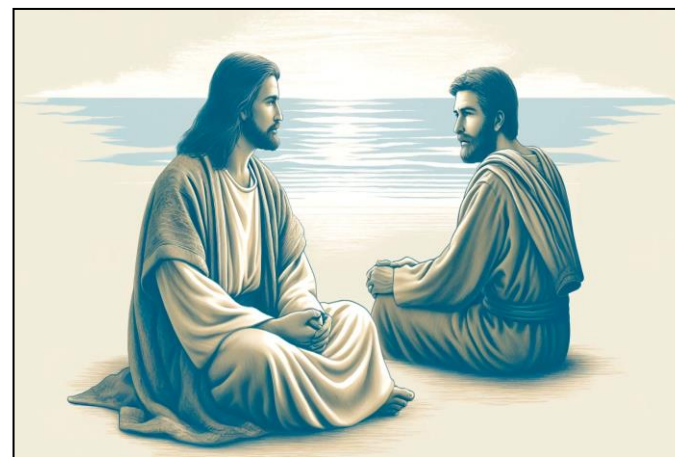
E メールアドレス : miyakoch@eagle.ocn.ne.jp

ホームページアドレス : <https://miyakojima-church1.com>

郵便振替 00920-4-1442 日本基督教団都島伝道所

主任牧師 井上 隆 晶

2025年5月25日 No.1821



《ペトロへの三度の問いかけ》

都島教会の 2025 年度の宣教方針

標語 《会堂建築の準備をしよう》

聖句 「主御自身が建ててくださるのでなければ、家を建てる人の労苦はむなしい。」（詩編 127 : 1）

2025 年度の目標

- 1 毎週礼拝を守り、礼拝出席平均 28 名を目指します。
- 2 一年間に一人を礼拝にお誘いします。
- 3 信徒の交わりを大切にします。
- 4 会堂建築のための具体的な準備を進めます。